

1年生高大連携授業 2024年1月16日(火)

題目「復興まちづくりの教訓と、事前復興まちづくりの取組」

兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科

講師 澤田 雅浩 先生

1 授業内容

(1) 概要

2024年1月17日は阪神・淡路大震災から29年目となる。自然災害が多い日本では被害を受けた後だけでなく、受ける前から多くの復興まちづくりが今も進められている。南海トラフ巨大地震の発生も危惧され、能登半島で地震が発生した今の状況でよりよい復興のためにはどうすればよいか考える。

(2) 具体的な内容

・中越地震

仮住まい期間の活用、近所の人と暮らせる状況をつくる。(人と人との関係を大切にする仕組み) 被災者が個々で、仮設住宅で過ごした場合、地域の環境維持が大変。人口減少社会を前提とした復興を考える必要性。復興≠V字回復

・丹波(豪雨での被災)

地域がもともと抱えていた課題を解決することで復興(地域の持続性もup)

課題: 森林の手入れが行き届いていない

解決方法: 市や業者に任せるのではなく現地の住民で作業

人のアクティビティが地域の復興につながる

・復旧と復興

壊れたものの直し方の工夫をしていくことがこれからの社会で必要となる。みんなが心持ちに注目した復興方法を考えていく。台湾では地域を見つめなおし、生態環境を重視した地域づくりを目指した。例えば、民宿の経営指導や地方の特色ある料理開発。住民が「行政は何をしてくれるのか」という受け身の姿勢ではなく、「地域が主語になる取組」をすることが復興のカギとなる。復興は「形」ではなく、「被災者の暮らし」が大切。

2 感想

今回の講義を通して、被災と復興まちづくりについて考えました。日本では災害が多く、復興まちづくりは今後も重要となってきます。私は今まで復興は「街が元通りになる」だけと思っていましたが、最近の復興はただ元通りにするだけではなく、未来を考えた復興が求められる現代になってきていることを知りました。私もいつ災害に遭うかもしれないので他人事と思わず、復興について考えていきたいです。

記録者: 1年2組21番 松本 美月

1年1組 2番 上野 蒼生

